

人工膝関節置換術（TKA）について（指導医：渡邊 慶）

2022年の1年間のTKA手術は80件でした。

変形性膝関節症は中高年の方を中心に日本国内だけで約2,500万人がかかっているといわれています。高齢化社会の進展とともにさらに増加すると見込まれています。多くの場合は、膝の内側の軟骨がすり減って、摩擦し、徐々にO脚（内反変形といいます）となり、膝の内側の痛みが出現してきます。膝の外側の軟骨がすり減ってくる場合は、徐々にX脚（外反変形といいます）となって、膝の外側の痛みが出現してきます。いずれの場合も、最初は、投薬やヒアルロン酸の関節内注射、リハビリなどの保存的治療が行われますが、それでも痛みが続く場合には、手術治療の適応となります。年齢が60歳以上となり、変形の強い場合には、人工膝関節置換術を行うことによって、痛みが楽になり、歩きやすくなって、活動性がアップし、生活の質（QOL）の改善が期待できます。

また、関節リウマチの方では、膝関節内に滑膜が増生し、軟骨が破壊されてくることにより、膝関節の痛みが増悪します。こういった場合でも、人工膝関節置換術を行うことにより、痛みが軽快し、歩きやすくなることが期待できます。

当科では、そのような患者さんに対して、人工膝関節置換術を行っています。

逆に、少々変形があっても、痛みが我慢できる範囲内であれば、必ずしも手術を受ける必要はありません。手術にはメリット、デメリットがありますから、その点について、十分に説明を行い、納得していただいた方に手術をお勧めしています。

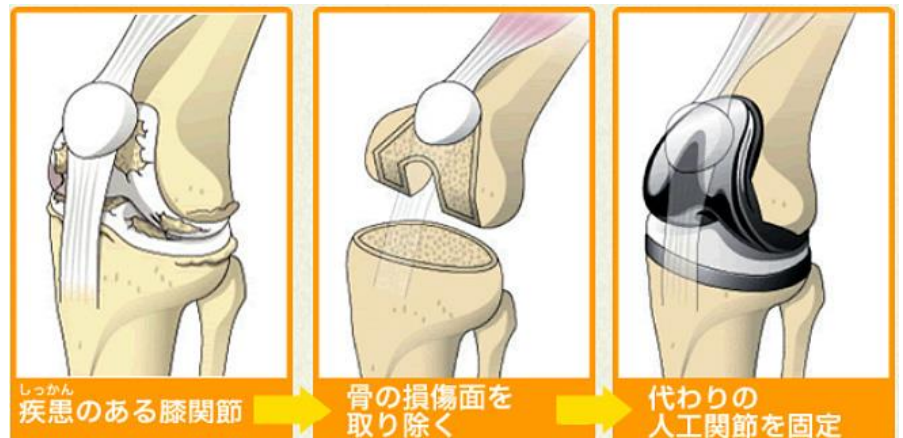
・手術までの流れ

① 外来で診察、レントゲン検査を行い、人工膝関節置換術の適応があるかどうかを判断します。その際、既往症、現在の内服薬等の情報が重要となりますので、お薬手帳をお持ちの場合にはご持参頂くようお願いします。かかりつけ医からの紹介状をお持ちの場合には、受付に提出してください。

② 血液検査、心電図検査、各種画像検査を行い、手術可能と判断できれば、手術予定を組みます。85歳以上の高齢の方であっても、全身状態をチェックした上で、手術を行っています。当院での入院期間は約2週間です。多くの方が、2週間で杖歩行となり、自宅に帰ることが可能となりますが、落ち着いてリハビリを続けたいという希望のある方には、転院の上でさらにリハビリを継続していただいています。

・手術の実際

麻酔のかかった状態で、膝関節の骨（大腿骨、脛骨、膝蓋骨）を展開し、骨切りを行います。骨の大きさに応じたサイズのインプラントをセメントでそれぞれ固定します。最後に軟骨の代わりとなるインサートをはめ込み、手術は終了します。



- ・術後の流れ

麻酔が覚めてきたら、積極的に足関節を動かしましょう。多少の痛みはありますが、動かした方が後々のリハビリが早く進みます。通常は、手術翌日からリハビリ、歩行器歩行を開始します。時間とともに、痛みは楽になっていきますから、どんどん動いて、活動性をあげていきましょう。

術後 10 日から 12 日ぐらいで傷のガーゼが取れます。そのままの状態ですhower浴も可能となります。この頃には、杖歩行の練習、階段の練習を行っていきます。



退院後は、頻度は多くありませんが、定期的な外来通院が必要です。術後 1 年以上経って、順調に経過している方でも、年に 1 回は通院、診察、レントゲンのチェックを受けていただいています。